

沖縄県外来種対策行動計画に基づく
ノヤギ 防除計画

令和5年3月

沖 縄 県

1 背景と目的

ヤギは西アジアが原産とされており、本来わが国には分布していない動物で、家畜として 15 世紀頃に持ち込まれたとされています。これらのヤギが逸脱や放逐等により野生化したものを、ノヤギと呼んでいます。

沖縄県内ではこれまでの調査やヒアリング情報から、少なくとも沖縄諸島や慶良間諸島、八重山諸島など 18 の島に個体群が生息していると考えられます。

ノヤギは希少種を含む多様な植物を食害し、踏圧をかけるため、植生を衰退させる可能性があります。さらに、植生破壊による陸域生態系への影響や、土壌流出による海洋生態系への影響が懸念されています。国内では小笠原諸島や伊豆諸島で、ノヤギ増加による森林植生の破壊や土壌の流出等が発生しており、生態系保全のための対策が実施され、根絶の達成などの成果があがっているところもあります。

沖縄県では「沖縄県外来種対策指針」に基づいた「沖縄県対策外来種リスト」を作成し、生態系等に重大な影響を及ぼす外来種の対策を推進しています。ノヤギは、生態系に著しく悪影響を及ぼすことから、外来種リストの中でも優先順位の高い「重点対策種」として指定され、重点的に防除を実施する必要がある種とされました。

本防除計画は、生物多様性の保全を図るために必要な計画を策定し、ノヤギによる生態系への影響を排除もしくは低減させ、効果的で継続的な防除を実施することを目的とします。

2 概要

(1) 和名等

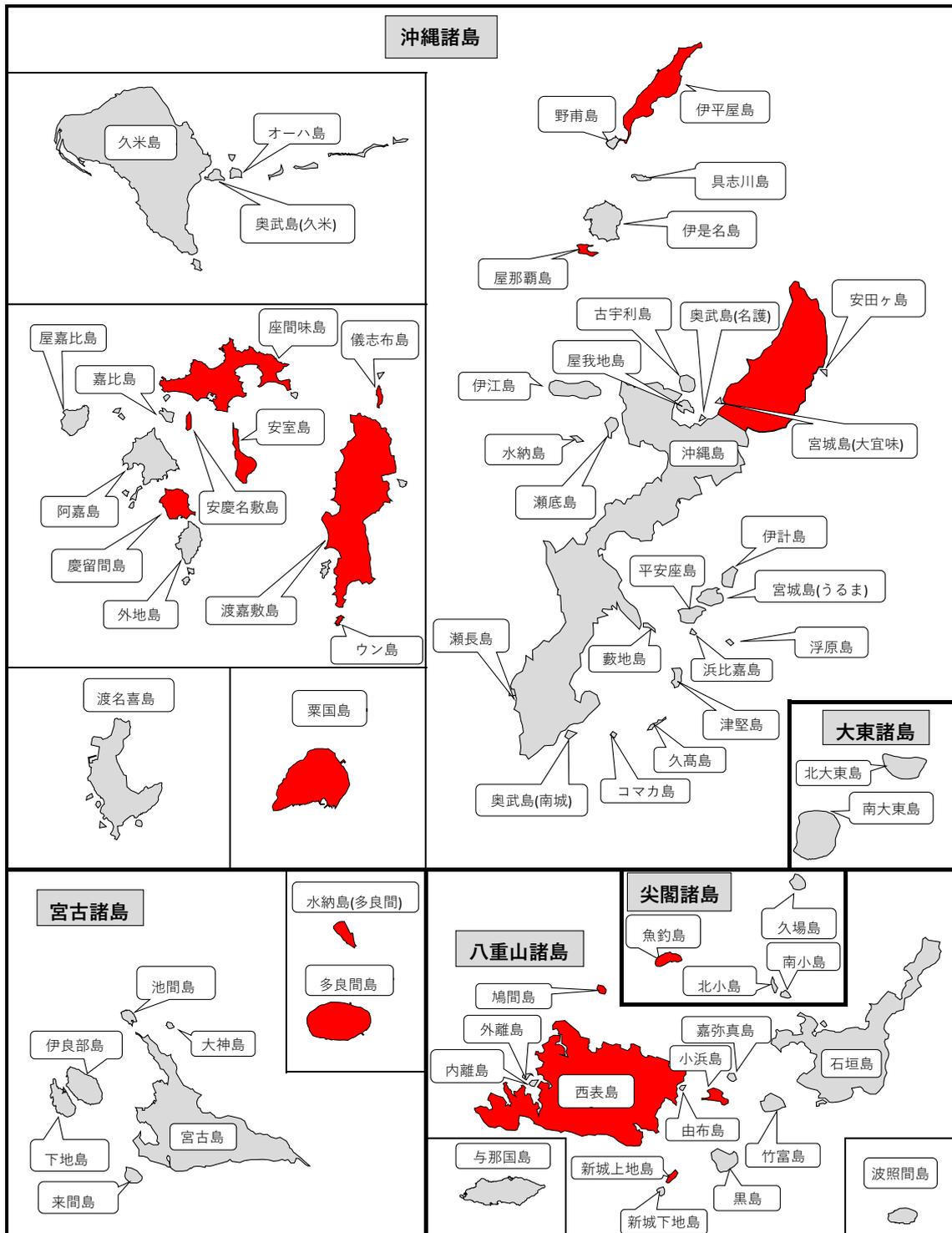
偶蹄目ウシ科

ヤギ (学名 *Capra hircus*)

(2) 分布

原産地：西アジア (パキスタン～トルコ)

県内の分布確認状況：やんばる地域、伊平屋島、屋那覇島、渡嘉敷島、儀志布島、ウン島、座間味島、慶留間島、安慶名敷島、安室島、栗国島、多良間島、水納島 (多良間)、西表島、小浜島、鳩間島、新城上地島、魚釣島



ノヤギの生息が確認されている島

赤色で塗った島は生息が確認されている島を示す。

(3) 形態・生態

体重はオスが 27～45kg、メスが 25～35kg で、オスはメスより体が大きくなり、角もオスがメスより比較的長くなります。体色は多様で、白、黒、褐色、それらが混合したものがあります。繁殖期は沖縄県で一般的な品種では秋から冬ですが、品種や地域によってほぼ 1 年中となるタイプがいます。さまざまな木本・草本類の葉、芽、樹皮を食べ、高所を好み、断崖絶壁も往来できます。湿気や雨を好まないため、雨に濡れた草は食べないとされています。



ノヤギ

3 指定の状況

特定外来生物	—
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト	緊急対策外来種
日本の侵略的外来種ワースト 100	○
世界の侵略的外来種ワースト 100	○

4 生態系等への影響

沖縄県では、西表島ややんばる地域等における生息が確認されており、ノヤギによる植生の破壊と土壌流出、在来の植生やイリオモテヤマネコをはじめとする固有種への影響が懸念されています。

東京都の小笠原諸島では、特に媒島で植生の破壊による土壌の浸食や、その結果としての鳥類の営巣環境の消失、陸上昆虫類の生息環境の破壊といった陸上生態系への影響と、土壌流出によるサンゴ礁や各種底生生物などを含む海洋生態系への影響等が指摘されています。

特に島嶼では大きな環境変化が起きやすく、希少植物の食害や植生の崩壊に伴う生態系への影響が懸念されています。

5 目標

◎やんばる地域からの排除

やんばる地域では生息域が限られていると考えられるため、全域での捕獲を実施して根絶を目指します。

沖縄県外来種対策行動計画に基づく防除目標のカテゴリー

→ **目標 B 重要区域からの排除** (やんばる地域)

◎西表島における低密度管理

特にノヤギにより生態系への影響が懸念されている西表島では、ノヤギがアクセスの難しい地域にまで分布を拡大しています。個体数を減少させ、生態系への影響を軽減させるため、低密度化を目指します。

沖縄県外来種対策行動計画に基づく防除目標のカテゴリー

→ **目標 C 重要区域における低密度管理** (西表島)

6 対策の方針

(1) やんばる地域、西表島における防除の実施

ノヤギの生息域が限られているやんばる地域では、わな及び銃器による全域での捕獲を実施して根絶を目指します。面積が広くノヤギの分布が拡大している西表島では、環境省や竹富町等の関係機関と調整して防除実施エリアを分担し、アクセス可能なエリアから捕獲を実施して低密度化を目指します。

(2) 普及啓発

防除の目的や防除事業の内容を広く県民に知らせるために広報誌やホームページ等への掲載、小冊子の配布等を行うなど普及啓発に努めるとともに、防除が進捗

した場合のノヤギの目撃情報の収集や捕獲に向けた協力など、関係機関や住民と協力して防除に取り組みます。また、家畜ヤギの逸脱が起きないように、適正飼育を推進します。

(3) 捕獲手法等の改良

効果的な防除を実施するため、新たに得られた知見や技術、有識者等の意見を踏まえて捕獲手法等の改良を行います。

目標カテゴリ-B：重要区域からの排除（やんばる地域）

目標：やんばる地域からの排除

対策の方針	実施項目	期間	実施地域	実施内容
やんばる地域における防除の実施	地域根絶に向けた捕獲	短期～長期	やんばる地域	やんばる地域全域でわなや銃器等を用いて捕獲を行う。
普及啓発	県民等への普及啓発	短期～長期	沖縄県内	広報誌やホームページ、小冊子の配布等を通して広く県民へ普及啓発を実施し、理解や協力が得られるよう、関係機関と協力して取り組む。また、ヤギの適正飼育を推進する。
捕獲手法の検討	捕獲効率の向上	短期～長期	やんばる地域	新たに得られた知見や技術、有識者等の意見を踏まえて捕獲手法等の改良を行う。

短期は概ね3年目までの期間、長期は概ね4年目以降の期間

目標カテゴリ-C：重要区域における低密度管理（西表島）

目標：西表島における低密度管理

対策の方針	実施項目	期間	実施地域	実施内容
西表島における防除の実施	低密度化に向けた捕獲	短期～長期	西表島	西表島全域でわなや銃器等を用いて捕獲を行う。
普及啓発	県民等への普及啓発	短期～長期	沖縄県内	広報誌やホームページ、小冊子の配布等を通して広く県民へ普及啓発を実施し、理解や協力が得られるよう、関係機関と協力して取り組む。また、ヤギの適正飼育を推進する。
捕獲手法の検討	捕獲効率の向上	短期～長期	西表島	新たに得られた知見や技術、有識者等の意見を踏まえて捕獲手法等の改良を行う。

短期は概ね3年目までの期間、長期は概ね4年目以降の期間

7 実施体制

効果的かつ効率的な対策のため、以下のような体制を目指し、関係機関と連携します。

- 西表島、やんばる地域における防除の実施：沖縄県環境部（環境省・町村）
- 普及啓発の実施：沖縄県環境部（環境省、市町村、公的な研究機関、教育機関、民間団体、大学等の機関）

8 防除方法

防除を専門的に行う従事者を中心とした組織的な体制を確保し、計画的に防除を実施します。

また、有識者からの意見等を踏まえ、事業の成果及び進捗状況を適切に評価し、必要に応じて防除計画や事業内容の修正等を図るものとします。

(1) 捕獲

ノヤギの捕獲は、わなや銃器等を用いて実施します。また、新たに捕獲手法の技術開発を行い、効果が認められたものを使用します。わなには実施主体者、連絡先などの標識を取り付け、事故防止に努めます。

(2) 捕獲後の処置

捕獲した個体は、適切に処置します。捕獲個体については学術研究、展示、教育、その他公益上の必要性があると認められる場合はサンプルの提供を行います。

(3) モニタリング

目撃情報や自動撮影カメラ、探索犬等によるモニタリングを行い、収集したデータを解析し、生息状況の把握に努めます。また、得られた情報を基に、捕獲手法の検討・見直し、防除の進捗の把握や捕獲計画の策定・修正等を行います。

9 防除計画の見直し

当該防除計画は3年目に中間評価を行い、5年目に見直しを実施します。なお、対策上必要と認められる場合は、随時見直しを行うものとします。